

第12回山陽小野田医師会女性医師の会総会

令和5年10月14日、第12回山陽小野田医師会女性医師の会総会をソルポニエンテで執り行いました。総会は4年ぶり、前任の西岡和恵先生から引き継がれた伊藤忍先生が会長になってから初めての開催でした。

来賓として山口大学医学部附属病院医療人育成センター教授・山口県医師会男女共同参画部会長・黒川典枝先生、山口労災病院院長・山口県医師会会長、加藤智栄先生、山陽小野田市民病院局長・矢賀健先生、山陽小野田市民病院病院長・藤岡顕太郎先生に出席していただき、藤村嘉彦先生の挨拶を初めに、役員紹介、会計・監査報告を滞りなく行いました。引き続き加藤智栄先生による特別講演「医師会報を振り返っ



て」を拝聴しました。加藤先生は医療に関わる時事問題を洞察し、新聞や医師会雑誌などに問題点を提言されてこられました。中でも「日本の医療が健全に発展するための提言」は大変印象的でした。海外に比べ異常に高い医療材料費、新しく、高度な医療機器の装備を要求する風潮、機

材購入の際の消費税の医療者側の負担は、働き方改革に伴う人件費の負担と共に大きくのしかかってきます。この状況の中で、私たちは「最善の医療」の質が低下しないよう医学的知識だけでなく、医療にまつわる諸問題にも見識を深めていかなければならないと思いました。

講演後は食事をしながら歓談を楽しみました。食事の後半は恒例の会員の自



己紹介・近況報告です。お二人の先生から「女性はいらない」と〇〇科からあしらわれたというお話から、専攻医の先生は配偶者が専業主夫という現代のrole modelのお話まで様々でした。先生方の年齢や環境はそれぞれ違っていますが、生き生きとされており、改めて医師は

やり甲斐のある素晴らしい職業だと思いました。

最後は恒例の写真撮影でした。私たちはコロナという不測の事態であらゆることが3年も中断され、平穩の大切さを知りました。来年も一同が集まり笑って写真に収まることができるよう、平和を祈るばかりです。



(長谷川朋美 報)